

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301260		
法人名	医療法人 社団豊仁会		
事業所名	グループホームぬもり		
所在地	青森県八戸市石堂1-14-27		
自己評価作成日	平成24年11月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成24年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当ホームは「家庭的な雰囲気の中、自由に、のんびりと、一緒に楽しく」生活できるよう心掛け、本人のペースで生活していけるよう支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>同法人の病院、老人保健施設、デイサービスが隣接しており、災害時や緊急時における連携体制が整備されている。 運営推進会議において、災害時の体制や意見箱のネーミング等について検討したり、地域住民の視点を大切にしながら実践に活かすよう努めている。 また、地域の行事や公民館祭りに積極的に参加し、地域とのつながりを深めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中で「自由にのんびりと、一緒に楽しく」共に生活していくことを理念に掲げ、フロア内に掲示し、日常的に意識するよう努めている。	家庭的な雰囲気の中で「自由に、のんびりと、一緒に楽しく」共に生活していくというホーム独自の理念を掲げており、ホールに掲示して、いつでも確認出来るようにしている。また、地域におけるホームの役割について十分に理解を深め、利用者が慣れ親しんだ地域で、自由にのんびりと過ごせるよう、理念を反映させたケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の際等に地域活動の情報収集を行い、町内清掃・防災訓練・敬老会等に積極的に参加している。	町内の清掃や防災訓練、地域の敬老会に参加したり、公民館祭りに作品を出展している他、町内会の方々に「よさこい踊り」を披露してもらう等、地域との交流を大切にしている。また、婦人会のボランティアや中学生の職場体験を受け入れている他、法人内の保育園児が来訪して利用者と交流を行い、喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎回ではないが、運営推進会議の機会等を活用し、情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で意見を伺い、出来る事はなるべく取り入れ、直ちに改善出来ない事に関しては理由を説明し、後日スタッフ会議の際に改善に向けた検討を行っている。	家族代表、町内会長、婦人会長、老人クラブ会長、民生委員、行政担当課職員、ホーム職員、法人事務長という構成で、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議はホームの行事に重なるように日程を調整し、メンバーが参加しやすいように配慮している。また、利用者の状況やホームの取り組みを報告し、課題について話し合い、率直な意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の集団指導への参加の他、運営推進会議へ出席依頼をしており、必要に応じて役所に足を運んだり、電話で相談している。	運営推進会議には市の介護保険課の職員が参画しており、利用者の状況やホームの取り組みを報告すると共に、課題についてのアドバイスを得たり、情報交換を行っている。また、自己及び外部評価結果や目標達成計画を提出し、ホームの実態等を理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホームの考え方や取り組み等をより理解してもらえるよう、個人情報にも配慮の上、パンフレットや広報誌の配布を検討することに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的に行わないが、状況により、やむを得ない場合には家族等から同意書をいただき、マニュアルに従って対応する事としている。	日中、玄関や居室に施錠せず、その人らしい生活が送れるよう身体拘束のないケアに努めている。ホームは建物の2階で、階段扉やエレベーターは事務室前にあり、利用者の外出傾向を察知出来るようになっている。外出傾向が強い時には、本人が納得するまで行きたい所へ職員が付き添い、利用者の思いを叶えるように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部の研修に参加し、研修報告会を開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、内部研修にて知識を広げる場を設けている。養護者からの依頼があれば、成年後見人制度活用のための支援も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の相談時の聞き取りや入居時の説明、その他、当ホームで説明出来る事はなるべく詳しく説明し、理解していただく努力を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱をホーム内に設置し、苦情処理の流れも掲示している。また、同法人内にも苦情窓口を設置している。職員に訴える際は傾聴し、看護師の訪問時に聞き取りをしてもらい、報告してもらうようにしている。	家族には面会や行事の際に、利用者の暮らしぶりや受診状況、金銭管理状況等を、話しやすい雰囲気づくりを心掛けた上で報告している。利用者との会話が困難な場合には、スキップをとりながら、利用者のしぐさや態度等からも意向等を察するように努めている。また、運営推進会議にて「意見箱」の表現をより柔らかな表示にしてはとの提案があったことから、現在表記方法を検討している等、広く意見や要望等を把握出来るように取り組んでいる。	ホーム内の苦情対応の手順は重要事項説明書に明示されているが、ホーム外の苦情受付窓口は記載されていないので、明示する事に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回会議を行い、職員の意見や提案を聞き、反映させている。また、適時、意見があれば聞いている。	職員会議や勉強会、利用者の作業内容等のリーダーを、職員が交代で担当することになっており、会議や日常のケアにおいても、必要時にお互いに意見を出し合うように取り組んでいる。また、法人内では年2回の異動があるが、ホームでは馴染みの関係を大切に、配慮をしてもらうように働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人役員が頻繁にホームに訪れており、その際、職員の勤務状況や要望の把握、確認を行い、環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会がある毎に、外部・内部の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修や総会等に参加し、交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が面接出来る状況であれば、事前に面接や見学を行っていただき、ホームでの生活を理解していただけるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の際の聞き取りや必要に応じ、本人の面接の機会を設ける等、状況把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や介護状況、当ホームの入居状況、待機者状況も踏まえ、必要に応じ、出来る範囲で他施設の紹介や、より多くの情報を持っている在宅介護支援センターの職員に相談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をしている。また、外出や家事を一緒に行う等、共に生活する事を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の状況や立場の理解に努め、本人の状況や様子を報告し、出来る範囲で協力をいただき、本人を支えていく関係づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の方が、外出や外泊をさせたいと希望された際等、家族に連絡を取り、許可をもらう等の対応を行っている。	入居時の利用者や家族からの情報収集の他、日常の会話等からも馴染みの人や場所の把握に努めている。馴染みの場所をドライブのコースに入れたり、以前住んでいた場所を通る等、柔軟な対応を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の個性や癖を捉え、利用者同士の関係や交流を継続出来るように支援している。一人で過ごす事を好む方には無理には促さず、自分のペースで過ごす事を優先している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談があれば、当ホームで出来る範囲で対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを多く持つようにし、本人の希望、意向の把握に努めている。ホームで対応出来る事は可能な範囲で対応を行うが、ホームで対応しきれない意向は家族に相談し、対応していただく。	生活見直しシート(アセスメント導入シート)を活用し、利用者の様子を観察したり、日常の会話の中から思いや意向を把握するように努めている。また、必要に応じて、家族や関係者から情報収集を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りの他、日常の会話の中での情報収集、気付いた点、気になる事等を家族に確認することにより、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースで一日を過ごしていただく中で常に観察や見守りを行い、心身状態や有する力等を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を取り込み、関係職員で会議を行い、日々の記録からの評価やアイデアを反映した介護計画の作成に努めている。	介護計画は、利用者や家族の意見や要望を情報収集し、全職員で話し合いの上、利用者一人ひとりの状態に合わせた個別具体的なものとなっている。3ヶ月の実施期間を明示しており、モニタリングを実施し、利用者や家族、職員の意見や気付きを取り入れて再アセスメントを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子やケアの提供状況を記録すると共に、ケアプランに基づき実践記録することで、結果や気付きの情報共有を行い、介護計画の見直しに活かすよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々の要望に対しては、出来得る限りの対応を行っていきよう努めている。当ホームで対応しきれない要望には、その旨と理由を説明し、どのように対応していくかを相談している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物や敬老会等に状況に応じて参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に協力医療機関の説明を行っている。現在のところ、当ホームの協力医療機関での対応で良いとの回答をもらい、対応をしている。	これまでの受療歴を把握しており、入居時にホームの協力医療機関の説明を行った上で、受診の了解を得ている他、整形外科や眼科等への受診は家族の協力を得て行っている。また、受診結果を記録に残しており、電話連絡や面会時の報告等で家族と情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており、適時相談し、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医との情報交換が出来る体制となっている。早期退院が出来るかどうかは当ホームの職員では判断出来ないため、主治医と家族の判断を基に、当ホームで対応可能であるかどうかで判断している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階での意思確認は行っていない。心身の状況が悪化してきた際に家族との話し合いを行い、方針を立てている。	重度化や終末期の対応について明文化はしていないが、医療機関への依頼や終末期ケアの受け入れ先への移動支援等、ホームで対応可能なことを支援するという方針を、入居時に利用者や家族等に説明している。また、状態変化や急変時には家族や医療機関と話し合い、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成、勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の実施と防災マニュアルの作成、掲示を行っている。運営推進会議で話し合いを設け、協力が得られるように働きかけを行っている。	年2回、消防署立ち合いによる総合訓練や避難誘導訓練を実施している他、2ヶ月に1回、昼夜を想定した独自の避難訓練も、併設している老健と連携を図りながら実施している。また、運営推進会議等を通じて、災害時の協力を得られるよう地域住民に働きかけを行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いに注意を払っている。自尊心を傷つけるような言葉遣いは避けるよう努めている。	利用者の言動を否定することなく、一人ひとりのペースに合わせて支援を行い、介助時や声掛け時は利用者の羞恥心に配慮している。また、個人情報保護法について、入職時に職員に説明し、利用者の個別ファイルは事務室カウンター内に適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	馴染みの関係づくりに努め、希望を話しやすくなるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりのペースで過ごせるよう配慮しながら、職員の提案も取り入れてもらえるようお願いをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容、美容に関しては基本的に当ホームの委託業者により行われている。本人及び家族の希望する店がある場合には、家族の協力により利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好、身体、認知症の状態により、出来る事が制限されるため、状況に合わせて支援している。	利用者の希望や好み、苦手なもの等に配慮した献立となっている。利用者は、その日の状態に応じて、皮むき等の食事の下ごしらえ、配膳等を職員と一緒にやっている。また、職員はさりげなく食事介助や食べこぼし等へのサポートを行いながら、利用者のペースに合わせて、和やかに食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量をチェックし、記録をしている。水分量に関して、自らあまり水分をとらない利用者に対しては、飲水量のチェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいや義歯洗浄を、個々に応じて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	状況により対応しており、利用者によっては、夜間の安眠のため、あえてオムツを使用することもある。その方の状態により尊厳を損なわないよう配慮し、対応している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、事前誘導しながら排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。失禁時等の対応は、利用者のプライドを尊重した対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材、飲み物等の工夫や適度な運動を生活の中に取り入れている。それでも便秘がちな場合には、看護師やかかりつけ医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	当ホームの状況や利用者の感染症等の疾患により、全ての希望に対応は出来ないが、なるべく希望に沿えるよう対応している。	入居時に利用者の入浴習慣や好みを把握するよう努めている。1階のデイサービスの浴室を使用し、一人ひとりが希望する入浴日や時間帯に沿えるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分である程度判断出来る方にはマイペースに過ごしてもらっている。疲労感や身体状況、引きこもりや身体機能の低下が懸念される場合等、状況により、休息、離床を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容説明書はいつでも目を通せる場所にあり、職員全員が周知出来るようにしている。また、個々に合った支援を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や個人の癖を捉えて役割があり、本人の楽しみ事を増やし、気晴らしが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や散歩等、外出の機会を適時、設けているが、全ての希望に沿えるとは言えない。ホームで出来る範囲で外出する機会を設けると共に、個別の希望には家族の協力を仰いでいる。	日常的に買い物や公園の散歩に出掛ける等、外に出る機会を設けている。花見やお祭り等の季節の行事や月1回の外食、馴染みの場所をルートに入れたドライブ等、利用者が楽しめる企画を用意している。また、利用者の希望が叶えられるよう、必要に応じて家族等に協力を呼び掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理(お小遣い程度)は基本的にはホームで管理している。利用者が所持を希望された場合は、本人が無くす事もある事を家族に説明し、納得してもらった上で本人に持たせている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話や手紙のやりとりがいつでも出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や音に関しては適時レースのカーテンを引いたり、不必要に大きな音は出さないように努めている。飾り付けや季節の食べ物、話題等により、季節感を演出している。	開放感のある広いホールは、自然光により程良い明るさが保たれている他、床暖房や加湿器によって温・湿度の調整がなされている。また、花を飾ったり、ベランダで野菜や稲を栽培する等、利用者が季節感を味わえるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間を食堂、ソファコーナー、2ヶ所設けている。利用者には本人の判断で好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の説明の際に、本人の使い慣れた物があれば持参するよう説明しており、各々が馴染みの家具を持って来ている。	利用者の使い慣れた家具を持ち込んでもらうよう家族に働きかけており、筆筒等が置かれ、自宅のような落ち着いた雰囲気のある居室となっている。また、手作りの作品や行事の写真を掲示したり、利用者職員で居心地良く暮らせる居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りの設置や本人の機能に合わせた補助具等の使用にて、工夫を行っている。		